

# 宮城厚生協会の 上半期収支結果と下半期の課題



優しいまなざしでリハビリ(坂病院総合リハ室)

# 厚生協会だより

2007年11月21日  
第 286 号

発行  
(財)宮城厚生協会

〒985-0835  
宮城県多賀城市下馬  
二丁目13番7号  
TEL 022-361-1113  
FAX 022-361-1124  
発行人：長 澤 清 光



宮城厚生協会  
専務理事 長澤 清光

## 1、2007年度の目標 当期損益で黒字を 作ること

厚生協会が今年度事業・経営活動で必ず達成しなければならぬ目標は、年度決算で当期損益の黒字を作り出すことです。これができないと来年度以降の事業展開は財務の面で厳しい状況を迎えます。上半期は一定の経営改善を作り出していますが、結果としては赤字決算に止まっています。また上半期の到達自体にも不安定な内容があり、それ

が下半期経営に影を落としています。現時点の下期経営見通しでは、医師体制や看護体制の制約による稼働低下が予想され、決算黒字の確保は極めて不透明な状態にあります。

## 2、上半期経営到達の特徴 (1) 経常利益で予算を 42百万円超過

上半期経営到達は法人全体で事業収益71億42百万円を確保しましたが、当期損益では▲14百万円の赤字になりました。4月からの半年間、各事業所 職員の奮闘によって事業収益規模は前年度実績から2億12百万円増となり、また事業費用関係では前年度実績に対して人件費62百万円増、材料費90百万円増がありますが事業費用合計では93百万円の増に止まり、前年度赤字額を1億22百万円ほど圧縮することができました。

上半期到達は黒字確保までもう一步と迫りましたが、懸

案の厚生協会に対する外部評価を引き上げるには至りませんでした。私たちはこれからの下半期の事業活動を旺盛に進めながら上半期の赤字を取り戻して決算黒字を作り出すことが、2008年度以降の事業活動を安定的に支える上での必達目標になります。

上半期経営到達の特徴の一つは、予算目標に対して事業収益が9百万円ほど不足したなかで、経常損益では予算目標を42百万円ほど上回ったことです。経常損益の予算超過は半年間の取り組みを反映した積極的なものですが、事業収益(特に医業収益)の予算未達成の状況が続くと、今後の経営活動は厳しい局面に陥ります。全ての部門・職場で下期職場目標の見直しと確認を進めながら、事業収益の増加と材料費の適正管理を強め、粗付加価値の増加にむけて取り組みましょう。

(2面につづく)

## (2) 目標達成への努力と 事業所毎の変化、 下期稼働計画の厳しさ

二つめの特徴は、事業所毎の経営状況に大きな変化が生じていることです。それぞれの事業所で予算目標達成に向けて努力していますが、上半期の事業収益と経常損益の到達は以下の通りです。事業収益では予算目標に届いていない事業所が増え、更に前年実績から後退している状況が生まれています。この状況が下半期の経営見通しを不安定なものにしています。診療報酬改悪や負担増と生活困難による患者の医療機関離れが広がる中で全国的に起きている中小病院と診療所の深刻な経営困難と共通する現象と共に、医師体制と看護体制の後退による下期稼働計画の厳しさが

現れています。

## 3、下半期の改善課題 08年度医療大改悪に 抗する経営構造を作る

以上のような状況を乗り切るためには、①、医師と看護師確保の取り組みを引き続き強めること、②、部門・職場目標の確認を通して付加価値要素をどのように高めるか職場の話し合いを大事にすること、③、全ての部門・職場で医師と看護師業務を軽減する支援策と行動計画を検討し事業所の改善計画として実践化することが欠かせません。

同時に、下期稼働計画の低下による収益減少が想定されますので、全職場で効率的な業務執行に心がけ、一部に慢性化している長時間労働を早急に改善し、「超勤手当」削減を進めなければなりません。

下半期経営の不安定さは、これらの課題を一つひとつ具体化し実践する中で乗り越える可能性が作られます。下半期の経営活動の成否は、2008年度医療制度大改悪に抗する事業経営構造を作れるかの試金石となります。部門・職場の話し合いを大事にしながら、私たちの民医連医療・介護事業を守り、発展させる気概を持って大いに取り組みを強めましょう。



表1 上半期法人損益計算書

単位：百万円

| 科 目     | 累計実績  | 構成比    | 累計予算  | 増減額 | 前期実績  | 増減額 |
|---------|-------|--------|-------|-----|-------|-----|
| (入院収益)  | 3,981 | 55.7%  | 3,984 | ▲3  | 3,825 | 156 |
| (外来収益)  | 2,155 | 30.2%  | 2,152 | 3   | 2,101 | 54  |
| 【医業収益】  | 6,414 | 89.8%  | 6,423 | ▲9  | 6,210 | 205 |
| 【介護収益】  | 726   | 10.2%  | 725   | 1   | 720   | 6   |
| 〔事業収益〕  | 7,142 | 100.0% | 7,151 | ▲9  | 6,930 | 212 |
| 【人件費】   | 4,362 | 61.1%  | 4,393 | ▲31 | 4,300 | 62  |
| 【材料費】   | 1,298 | 18.2%  | 1,262 | 36  | 1,208 | 90  |
| 【経費】    | 938   | 13.1%  | 987   | ▲49 | 954   | ▲16 |
| 【リース料】  | 107   | 1.5%   | 109   | ▲2  | 105   | 2   |
| 【減価償却費】 | 371   | 5.2%   | 371   | 0   | 416   | ▲45 |
| 〔事業費用〕  | 7,076 | 99.1%  | 7,122 | ▲46 | 6,984 | 92  |
| 〔事業利益〕  | 65    | 0.9%   | 29    | 37  | ▲54   | 120 |
| 【事業外収益】 | 49    | 0.7%   | 42    | 7   | 52    | ▲3  |
| 【事業外費用】 | 62    | 0.9%   | 60    | 1   | 68    | ▲6  |
| 【経常利益】  | 52    | 0.7%   | 10    | 42  | ▲70   | 122 |
| 【特別利益】  | 16    | 0.2%   | 0     | 16  | 0     | 16  |
| 【特別損失】  | 82    | 1.1%   | 77    | 5   | 78    | 3   |
| 〔当期利益〕  | ▲14   | -0.2%  | ▲67   | 53  | ▲149  | 135 |

## 坂総合病院リニューアル

## 構想の到達点と課題

その2



坂総合病院事務局長 福岡 真哉

今号は基本構想に基づく実績を報告いたします。

## 1、基本機能

(1) 病床は①入院療養環境の快適性を考え、1床当たり8㎡以上、個室比率38%、差額ベッド料金は徴収しない等を掲げ進めてきました。この2年余り(2005年11月～2007年7月)の病床稼働は、339

床に対して平均92.5%(313・4床)とほぼフル稼働で推移しております。又、新規入院は平均55.3名を毎月受入れています。そして、平均在院日数は病院全体で18.9日の期間となっています。

②患者・環境にやさしい①適切な感染管理Ⅱクリーンホスピタル②環境負荷低減技術活用Ⅱグリーンホスピタル③癒しの環境の提供Ⅱヒーリングホスピタルなどを追及、結果として、○環境工学的性能基準確保ⅡHEAS-02-1998(温度、湿度)、○感染性能確保Ⅱ米国CDCガイドライン1996、諸基準水準、成長と変化への対応Ⅱ施設のフレキシビリティ(エコアイスなど)を導入しています。

(4面につづく)

|               |   | 04 年<br>上期 | 04 年<br>下期 | 05 年<br>上期 | 05 年<br>下期 | 06 年<br>上期 | 06 年<br>下期 | 2007<br>/4/1 | 2007<br>/5/1 | 2007<br>/6/1 |
|---------------|---|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|
| ベ ッ ド 数       | 床 | 348        | 348        | 354        | 339        | 339        | 339        | 339          | 339          | 339          |
| 定 点 病 床 数     |   |            |            |            | 311        | 315        | 316        | 309          | 309          | 312          |
| 新入院数月平均       | 件 | 474        | 494        | 532        | 540        | 567        | 546        | 510          | 508          | 524          |
| 在 院 日 数       | 日 | 20.7       | 19.5       | 18.3       | 17.6       | 18.2       | 17.6       | 18           | 19           | 20           |
| 7 日 以 内 退 院 率 | % | 39.5       | 40.2       | 45.6       | 47.4       | 46.6       | 46.7       | 45.3         | 46           | 44.5         |
| 時 外 入 院 率     | % | 33.9       | 32.7       | 35.6       | 36.2       | 36.3       | 32.8       | 31           | 36.1         | 25.9         |
| 救急搬入月平均       | 台 | 198        | 201        | 217        | 225        | 242        | 205        | 223          | 187          | 208          |
| 同 入 院 月 平 均   | 件 | 94.8       | 93.6       | 117        | 128        | 127        | 95         | 109          | 82           | 89           |
| 同 入 院 率       | % | 48         | 46         | 54         | 57         | 52.7       | 46.3       | 48.9         | 43.3         | 42.8         |
| 紹介件数月平均       | 件 | 110        | 108        | 121        | 114        | 119        | 113        | 85           | 107          | 105          |
| 事業所数月平均       | 軒 | 55.5       | 58.3       | 59.3       | 62.4       | 62         | 60         | 47           | 56           | 57           |

# 上半期比較(05-07)

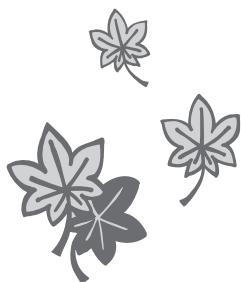
|                           | 2005      | 2006      | 2007      |
|---------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 付加価値<br>(経常利益+人件費+支払利息)   | 1,615,199 | 1,836,508 | 1,968,835 |
| 労働分配率<br>(付加価値に占める人件費の割合) | 114.87%   | 106.49%   | 97.44%    |
| 人件費率                      | 58.30%    | 53.48%    | 49.54%    |
| 粗付加価値<br>(事業収益-材料費)       | 2,430,964 | 2,821,511 | 2,945,199 |

85%以下

|        | 2005      | 2006      | 2007      |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 事業収益   | 3,182,391 | 3,656,737 | 3,872,367 |
| 事業費用   | 3,433,178 | 3,755,151 | 3,805,193 |
| (内人件費) | 1,855,450 | 1,955,755 | 1,918,534 |
| 経常利益   | -270,251  | -119,247  | 50,301    |

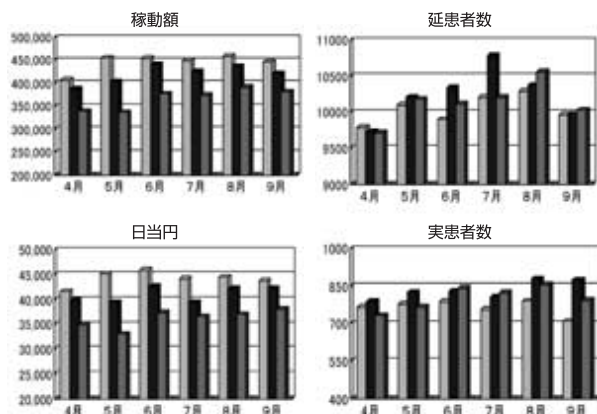
## 2、経営到達

この2年間で大きく改善し  
2007年上半期の経常損益  
は50百万円の黒字を確保し  
ています。経営構造は労働分  
配率、人件費率、粗付加価値  
などいずれも改善しています。  
外来・入院(3年間比較)と  
も実患者数、延べ患者数が減  
少傾向で日当円の上昇により  
稼動額が増加しています。  
以上、当初掲げた目標を着  
実に確実に進めており、今後  
とも皆様の大きなご支援ご協  
力により役職員一同踏ん張る  
決意です。よろしく願い  
たします。



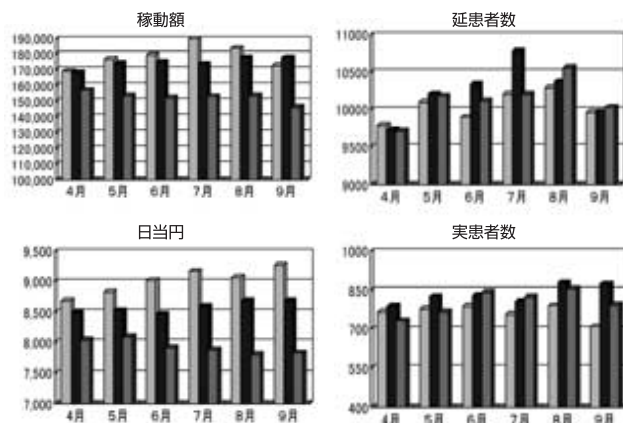
### 入院

07年:06年:05年

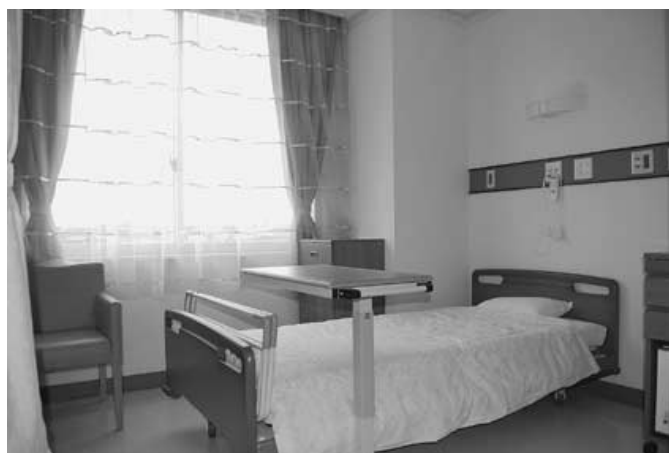


### 外来

07年:06年:05年

凡例  
■ 2007  
□ 2006  
▨ 2005

10階病棟のスタッフ



個室の明るい産科病棟





上野駅前で署名行動に参加する筆者

## 医師・看護師ふやせ！ ストンプ医療崩壊！

### 10・18中央集会

厚生協会看護部副部長 平間 止

「医師・看護師を増やして下さい。」「患者負担を軽減して下さい。」「国の医療予算を増やして下さい。」「北は北海道、南は沖縄まで全国の仲間達五千百人が切実な想いや要求を掲げて東京に集いました。」

集会に先立ち昼前の一時間5ヶ所の駅頭で宣伝行動をしました。宮城など東北ブロックを中心に上野駅前では約三百名が風船やチラシを配り署名を呼びかけ、各県の代表が宣伝力一の壇上から次々と深刻な医療現場の実態を訴えました。立ちどまつて聞く通行人、自らチラシを受け取っていく人、修学旅行のバ

スからは「がんばってえー」の声援もありました。

### シュプレヒコールの音頭

日比谷野外音楽堂に移動し宮城からの約五十名は前列の方に陣取り集会に参加しました。来賓の連帯挨拶(野党4党代表参加)や発言内容からしても私たちのこれまでの運動の積み重ねが着実に変化を作り出してきたいるなあ！と実感しました。

参加者代表として千葉有里香さん(坂病院7階病棟)が中央舞台に立つて元気よくこぶしを上げて大きな声で「看護師を増やせ」とシュプレヒコールを挙げた姿に励まされ、元気を頂いてきました。集会後、東京駅近くの常盤橋公園までデモ行進し道行く人々におおいにアピールしました。現場はとても忙しいけどお互いに励ましあつて、あきらめずに地域にも出て訴えましよう！

### 参加者の感想から

○谷崎隆太郎(坂病院医局)

医療関係者五千百人規模のデモ行進は、僕自身は初めてでしたが楽しんで参加できました。東京の人は冷たいといいますが、そんなことはなく、道行く人も僕たちの声に耳を傾けてくれたり署名をしてくれたり、非常に関心を持ってもらえました。医療問題への国民の関心の高さを実感するとともに、自分たちの行動が少しでも良い方向へ繋つて欲しいと感じた一日でした。

○千葉有里香(坂病院7階病棟)

皆で集まって訴えれば何か少しでも変わるのではないかと、という思いから今回集会に参加。シュプレヒコールを五千百人の前で音頭をとるという大役をさせていただき：とても貴重な経験になりました。これからも、集会や署名活動に積極的に参加していきたいです。

○高橋美子(協会事務局)

久しぶりに中央集会へ参加させてもらった。当日は天気にも恵まれた集会日和であり、大人数の熱気に囲まれ、とて

も爽快な気分になった。国民の生活や医療・介護情勢がどんどん悪化されている中で、日ごろ身近な所だけをみてみると、将来展望が持てなくなつてしまいがちになる。難しい文章や演説がもし理解できなくても、大勢の仲間の熱気を肌で感じ、現場で起きている報告を聞けば、自然に勇気がわいてくる。毎日の仕事の中で、患者・利用者さんの生の声を大事にできる様な働

き方ができれば、困難を跳ね返し、いきいきと働き続けられるのではと思った。



▲シュプレヒコールの音頭をとる千葉さん



宮城からの参加者。▶中央は谷崎先生

## 看護師復職支援 セミナー 開催のお知らせ

### 開催日時

平成19年  
12月10日(月)～12日(水)  
9時30分～16時

### 会場

宮城厚生協会 坂総合病院  
セミナールーム(2階)

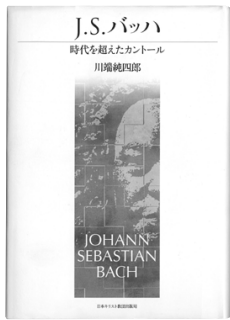
### 受講料

無料(昼食準備致します)

申し込み先 坂総合病院 看護部長室

電話 022-365-5175(代表)  
022-367-9004(直通)

発行所 日本キリスト教団出版局  
定価(3000円+税)



でも、先生が国内でも有数のバッハ研究者であることを知る人は意外に多くないように思います。本書は先生の数十年に渡るバッハ研究の集大成とも言えるもので、バッハの生涯とその作品の変遷を通し、先生

## バッハ研究者

多くの職員が、川端先生から直接、情勢や憲法問題の話を聞いたことがあり、国際政治学者として先生の姿はよくご存じでしょう。

さわやか  
エッセイ

# 『J・S・バッハ 時代を超えたカンタータ』

— 川端純四郎著 —

協会事務局情報管理部 部長 横田 渉

の広範な知識と鋭い見識で、新たなバッハ像を描き出しています。昨年の10月に出版されましたが、より多くの方に目を通していただけたらと思い、紹介いたします。

バッハの作品といわれてもすぐに曲名は出てこないかもしれませんが、現在作品として整理されているだけでも千曲を超えており、クラシックとしてのみならず、ポピュラー・ロック等様々なジャンルの音楽に使われております。

今から約三百年前に活躍したバッハですが、その活動が教会を中心としたものだったため、死後はほとんど忘れられていました。十九世紀にメンデルスゾーンがその作品を復活再演したことで、世界的に有名になりました。しかし、バッハにつ

いての研究が進み詳しいことが明らかになったのは、二十世紀後半になってからです。

ドイツでは毎年バッハ祭が開かれており、世界中から集まった人々の様々な演奏会や研究成果の発表があり、今でもその都度新たな事実や資料の発見があるそうです。川端先生は毎年この時期になると、とてもうれしそうにお出掛けになります。

## 「オルガンとカンタータの会」

先生のバッハ論は、その足跡を辿るだけではなく、四十年にも及ぶ作品の演奏活動によって裏打ちされたものです。仙台で百六十五回を数える「オルガンとカンタータの会」のコンサートは初回から一貫して先生がプログラムの作成に携わり、その作品の解説をするスタイルで

開催されてきました。その活動には、在仙のプロ・アマの音楽家はじめ国際的に活躍するオペラ歌手、宮城県音楽界の重鎮等が参加してきました。これまでにバッハの現存する200曲に及ぶカンタータの大半を演奏してきており、このような活動を地方都市で古くから行ってきたのは珍しいことです。当然のことながら楽譜はドイツから輸入することになり、カンタータの楽譜といえは国内で東京よりも仙台の方がかつては揃っていたそうです。

## 鋭い時代認識と歴史観

私はここ数年「オルガンとカンタータの会」の末席に名を連ね、先生から様々なバッハの話を聞かせていただく機会を得ました。これまでは、バッハ研究者としての先生と国際政治学者の先生は「別の顔」と思っていたのですが、この本を読んでもようやくそれが、先生の中ですべて結びついたものであることが分かりました。先生が本書で明らかにしているバッハ像は、欧米の著名なバッハ研究

家を向こうに回して、その誤りを鋭く指摘したり、新たな推理を加えたりしていますが、それは、川端先生の鋭い時代認識と歴史観から導き出された成果です。

最後にコンサートの紹介をさせていただきます(別表)。今回はクリスマスにちなんだ華やかな曲を演奏します。教会の独特の音響と雰囲気の中で、管弦楽と歌声の響きに浸ってみてはいかがでしょうか。1年の疲れが癒されるかもしれませんよ。



第166回 オルガンとカンタータの会  
**バッハのタベ**  
日時：2007年12月27日(木)19時開演  
場所：カトリック元寺小路教会  
入場料：一般2500円 学生1500円  
予定演奏曲：J.S.バッハカンタータ  
I 「私は、あなたのうちにあって喜ぶ」  
II オブリガード楽器付アリア集  
III 「鳴り交わす弦の競いつつ合和する響きよ」